



2024年9月期 第3四半期 連結決算 説明資料

2024年8月14日



目次

1. 2024年9月期 第3四半期 連結業績

2. 各事業セグメントの概況

- 毎日の暮らし事業
- ライフイベント事業



1. 2024年9月期 第3四半期 連結業績

- 売上高は 11,515百万円（前年同期比 72.9%）、営業利益は 343百万円（前年同期比 21.3%）、EBITDA は 1,133百万円（前年同期比 47.4%）で着地

各事業の進捗

毎日の暮らし事業

- トクバイ事業は有料掲載店舗数が伸び悩み。
- コスト削減を推進するも、当第3四半期における効果発現には至らず。

ライフイベント事業

住まい領域

- 引き続き市況は厳しいが、くふう住まいコンサルティング※は建築コンサルティング事業においてWeb集客に一定の効果。自社施工事業における納期遅延はほぼ解消、第4四半期に住宅の引き渡しが集中する見込み。
- くふう住まいはイエタテ事業の相談カウンターの成約数増加等が業績に寄与、既存店舗及び新店舗で相談数が増加。

結婚領域

- 通期での黒字化に向けて概ね計画通りの進捗。メディア事業の市場環境は厳しいが、商材拡充による収益力強化を推進。結婚式プロデュース事業は施行数が増加、受注も堅調に推移。

投資・ インキュベーション事業

- 投資事業は営業投資有価証券の売却益を計上。

2024年9月期 連結業績予想

- 2024年9月期は営業利益 700百万円（前期比 37.2%）、EBITDA 1,800百万円（前期比 61.5%）の見通し
- 中期計画（グループ経営目標）については見直しを検討中

	20/9期 ※	21/9期 ※	22/9期	23/9期	24/9期	
	実績	実績	実績	実績	予想	前期比
売上高	6,042	11,256	18,625	20,486	16,000	78.1 %
営業利益	604	1,000	1,558	1,882	700	37.2 %
EBITDA	890	1,617	2,581	2,926	1,800	61.5 %

（単位：百万円）

※ 2020年9月期（2019年10月～2020年9月）及び2021年9月期（2020年10月～2021年9月）の実績は、それぞれの期間における旧(株)くふうカンパニー及び(株)ロコガイドの連結業績を単純合算した金額（非監査）。

連結業績 売上高

- 当第3四半期累計の売上高は 11,515百万円、前年同期比 72.9%
- 通期業績予想に対する進捗率は 72.0%

	23/9期	24/9期			
	Q3累計	Q3累計 ※	前年同期比	通期 予想	進捗率
売上高	15,789	11,515	72.9%	16,000	72.0%
毎日の暮らし事業	2,275	2,296	100.9%	-	-
ライフイベント事業	8,727	6,656	76.3%	-	-
投資・インキュベーション事業	4,762	2,803	58.9%	-	-
その他	189	-	-	-	-
調整額	▲165	▲241	-	-	-

(単位：百万円)

※ 投資・インキュベーション事業において (株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

連結業績 営業利益・EBITDA

- 当第3四半期累計のEBITDAは 1,133百万円、前年同期比 47.4%
- 通期業績予想に対する進捗率は 63.0%

	23/9期	24/9期			
	Q3累計	Q3累計 ※	前年同期比	通期 予想	進捗率
営業利益	1,608	343	21.3%	700	49.1%
毎日の暮らし事業	645	490	76.1%	-	-
ライフイベント事業	434	320	73.8%	-	-
投資・インキュベーション事業	1,442	390	27.1%	-	-
その他	▲149	-	-	-	-
調整額	▲764	▲858	-	-	-
EBITDA	2,389	1,133	47.4%	1,800	63.0%

(単位：百万円)

※ 投資・インキュベーション事業において (株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

- 当第3四半期は黒字化

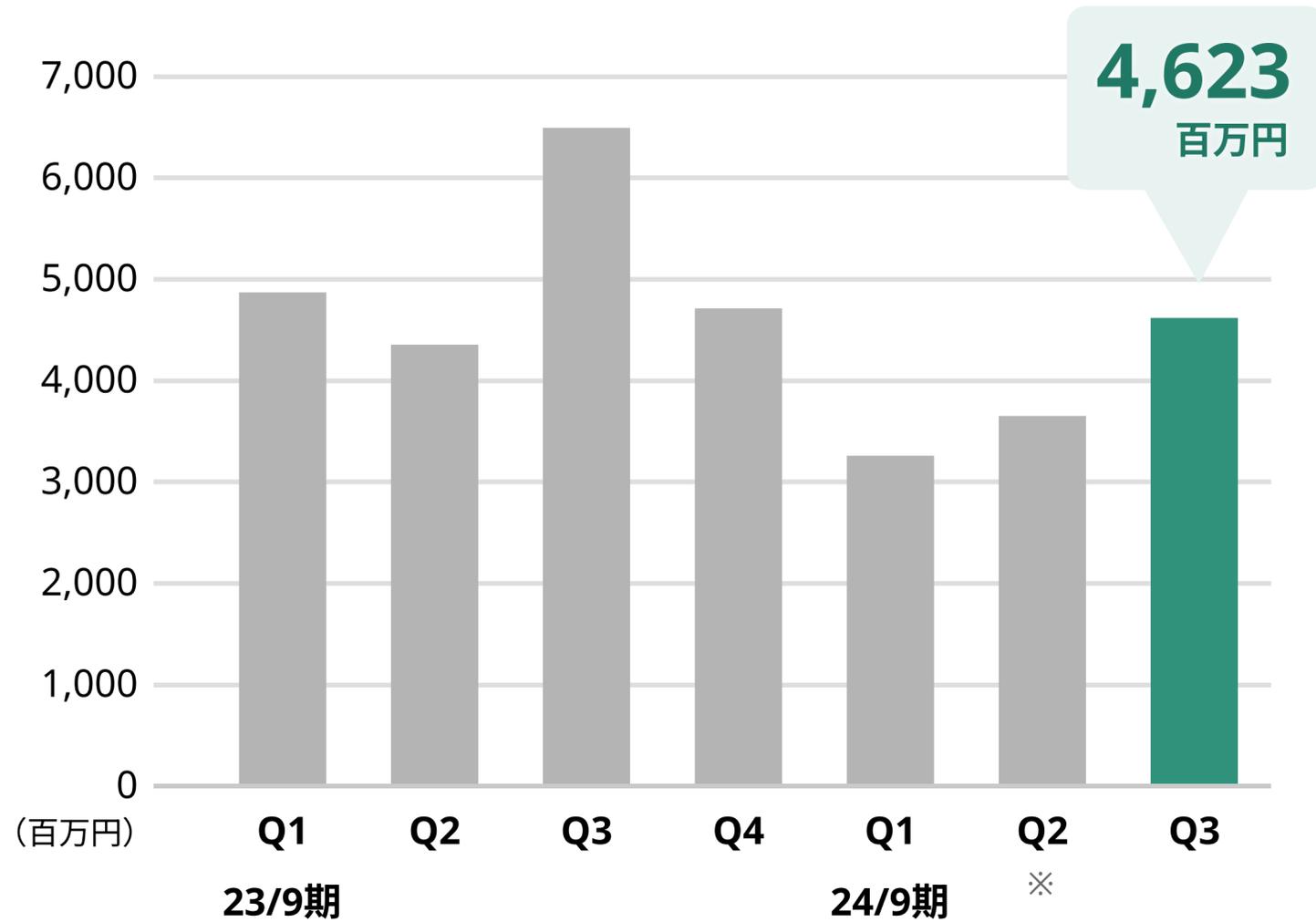
	23/9期				24/9期				
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2 ※	Q3	前年同期比	前四半期比
売上高	4,883	4,362	6,543	4,696	3,263	3,627	4,623	70.7%	127.5%
営業利益	433	151	1,023	274	▲117	▲47	507	49.6%	-
EBITDA	685	418	1,285	536	134	219	779	60.6%	355.8%

(単位：百万円)

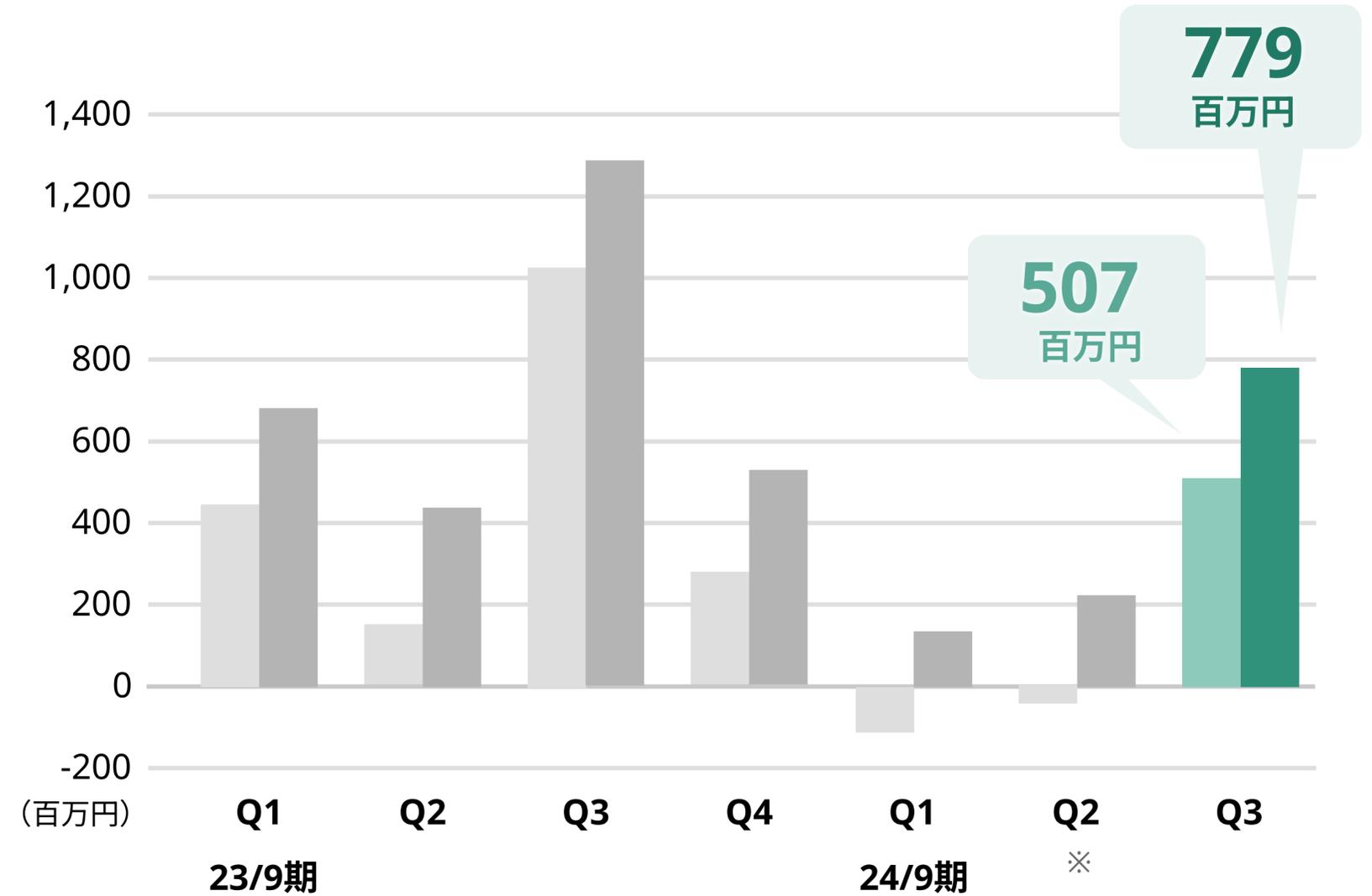
※ 投資・インキュベーション事業において (株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

- 当第3四半期は黒字化

売上高



営業利益 EBITDA



※ 投資・インキュベーション事業において(株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

連結業績 セグメント別 売上高（四半期）

- ・ 毎日の暮らし事業はトクバイ事業が伸び悩み
- ・ 投資・インキュベーション事業は営業投資有価証券の売却による売上を計上

		23/9期				24/9期				
		Q1	Q2	Q3 ※1	Q4 ※2	Q1	Q2 ※3	Q3	前年同期比	前四半期比
売上高	毎日の暮らし事業	771	806	698	856	772	764	759	108.8%	99.4%
	ライフイベント事業	2,515	2,975	3,236	3,076	2,150	2,320	2,184	67.5%	94.1%
	投資・インキュベーション事業	1,590	569	2,602	852	426	625	1,752	67.3%	280.2%
	その他	50	58	80	-	-	-	-	-	-
	調整額	▲43	▲47	▲74	▲88	▲86	▲82	▲72	-	-
	合計	4,883	4,362	6,543	4,696	3,263	3,627	4,623	70.7%	127.5%

(単位：百万円)

※1：組織再編に伴い、2023年9月期 第3四半期連結会計期間より一部事業の計上セグメントを投資・インキュベーション事業からライフイベント事業へ変更。

※2：2023年7月1日付で(株)Zaim 及び(株)Da Vinci Studio が合併したことに伴い、2023年9月期 第4四半期連結会計期間より、旧(株)Da Vinci Studio の売上高は計上セグメントをその他から毎日の暮らし事業へ変更。

※3：投資・インキュベーション事業において(株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

連結業績 セグメント別 営業利益（四半期）

- ・毎日の暮らし事業はトクバイ事業の伸び悩みとコスト削減効果の遅れにより前四半期比で減益
- ・ライフイベント事業は上期の遅れを取り戻し、投資・インキュベーション事業は営業投資有価証券の売却益を計上

		23/9期				24/9期				
		Q1	Q2	Q3 ※1	Q4 ※2	Q1	Q2 ※3	Q3	前年同期比	前四半期比
営業利益	毎日の暮らし事業	250	251	143	183	163	182	144	100.6%	79.2%
	ライフイベント事業	109	132	192	246	8	80	231	120.5%	289.0%
	投資・インキュベーション事業	405	53	983	107	▲58	▲12	460	46.8%	-
	その他	▲61	▲44	▲44	-	-	-	-	-	-
	調整額	▲269	▲242	▲252	▲263	▲231	▲297	▲329	-	-
	合計	433	151	1,023	274	▲117	▲47	507	49.6%	-

(単位：百万円)

※1：組織再編に伴い、2023年9月期 第3四半期連結会計期間より一部事業の計上セグメントを投資・インキュベーション事業からライフイベント事業へ変更。

※2：2023年7月1日付で(株)Zaim 及び(株)Da Vinci Studio が合併したことに伴い、2023年9月期 第4四半期連結会計期間より、旧(株)Da Vinci Studio の損益は計上セグメントをその他から毎日の暮らし事業へ変更。

※3：投資・インキュベーション事業において(株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

	2023年9月末	2024年6月末	増減額	増減要因
流動資産	14,122	10,653	▲3,469	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子会社株式の取得、借入金の返済、自己株式の取得等により現金及び預金が4,949百万円減少した一方、投資資金等の預け金の増加によりその他流動資産が1,893百万円増加
（現金及び預金）	9,405	4,455	▲4,949	
（営業投資有価証券）	1,334	1,360	26	
（販売用不動産）	1,232	1,243	11	
（その他流動資産）	525	2,419	1,893	
固定資産	6,851	6,800	▲50	
（のれん）	3,591	3,627	36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期借入金及び長期借入金が1,568百万円減少 ・ 株式交換に関連して増加した資本金及び資本準備金の振り替え等により資本剰余金が979百万円増加 ・ 自己株式は6月末までの取得等により1,075百万円増加 ・ くふう住まいコンサルティング（旧ハイアス）の完全子会社化等により非支配株主持分が1,218百万円減少
（投資その他の資産）	1,795	1,795	0	
資産	20,973	17,453	▲3,519	
負債	9,376	7,120	▲2,255	
（短期借入金及び長期借入金）	5,349	3,781	▲1,568	
純資産	11,596	10,333	▲1,263	
（資本金）	13	30	16	
（資本剰余金）	8,452	9,431	979	
（利益剰余金）	1,739	1,744	4	
（自己株式）	▲132	▲1,208	▲1,075	
（その他有価証券評価差額金）	▲13	18	31	
（非支配株主持分）	1,157	298	▲1,218	
負債及び純資産	20,973	17,453	▲3,519	

※（）記載している項目の金額は内書を表示。

（単位：百万円）

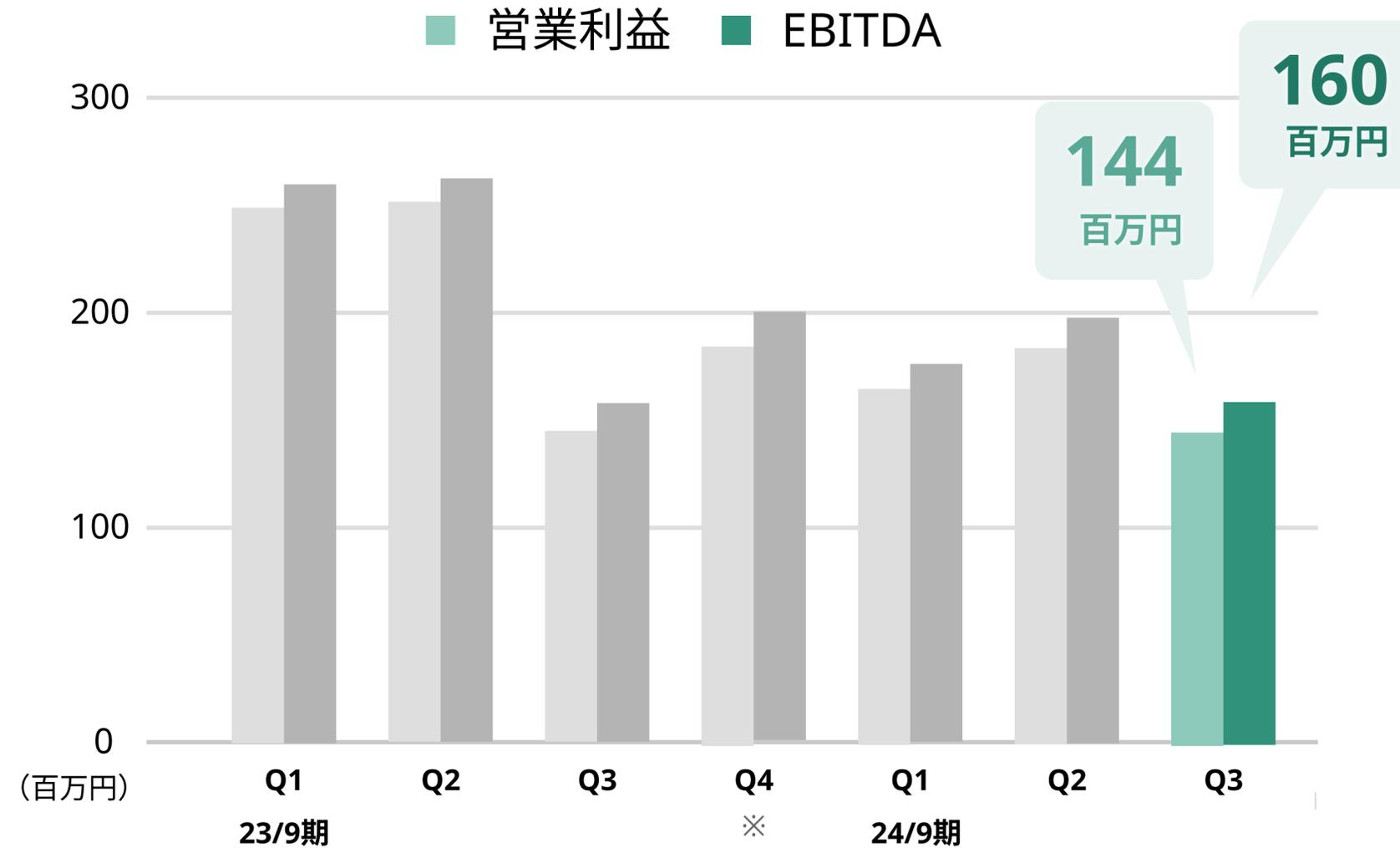
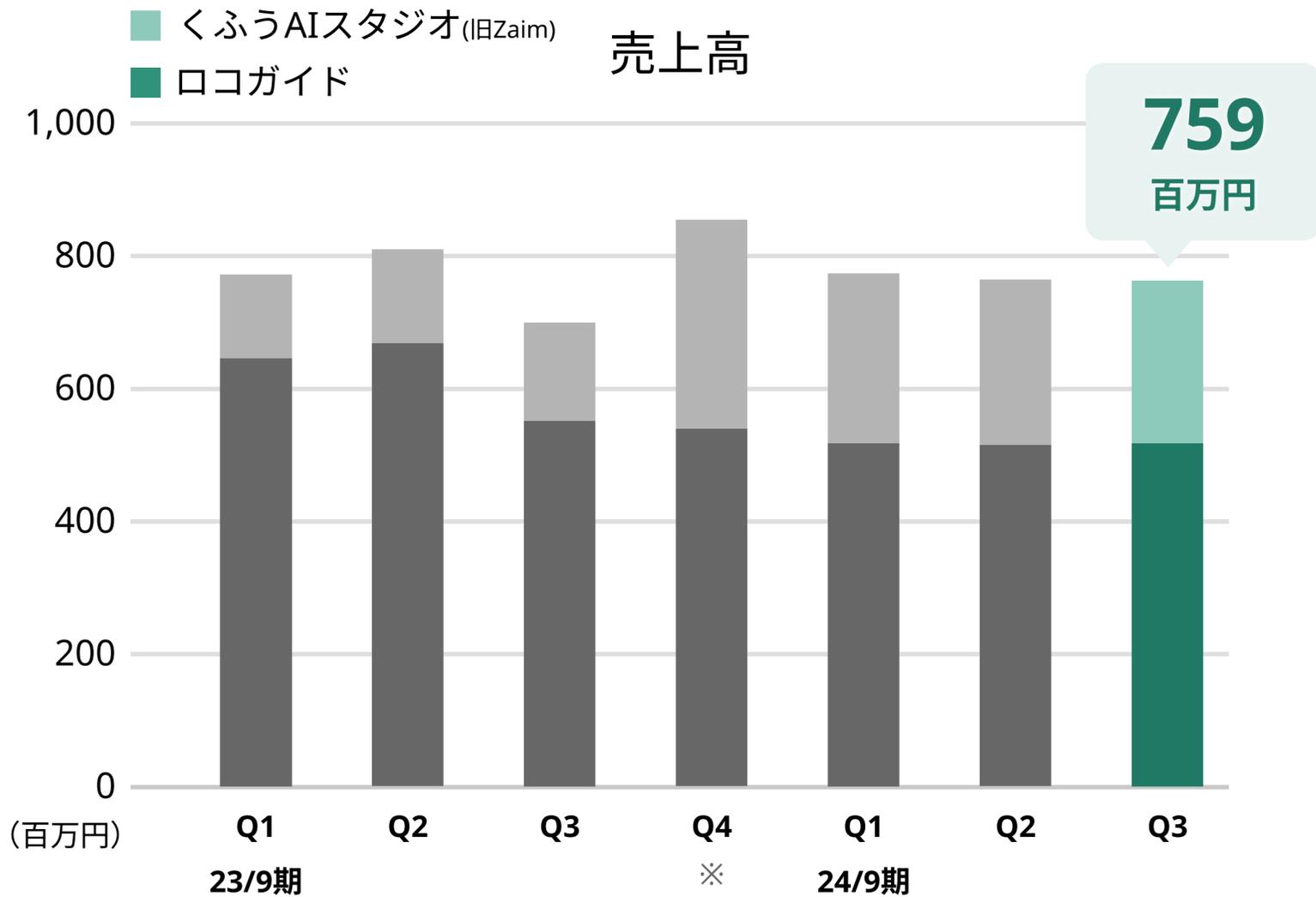
2. 各事業セグメントの概況

毎日の暮らし事業



毎日の暮らし事業 業績 四半期推移

- トクバイ事業は有料掲載店舗数が伸び悩み
- コスト削減を推進するも、当第3四半期における効果発現には至らず、減益



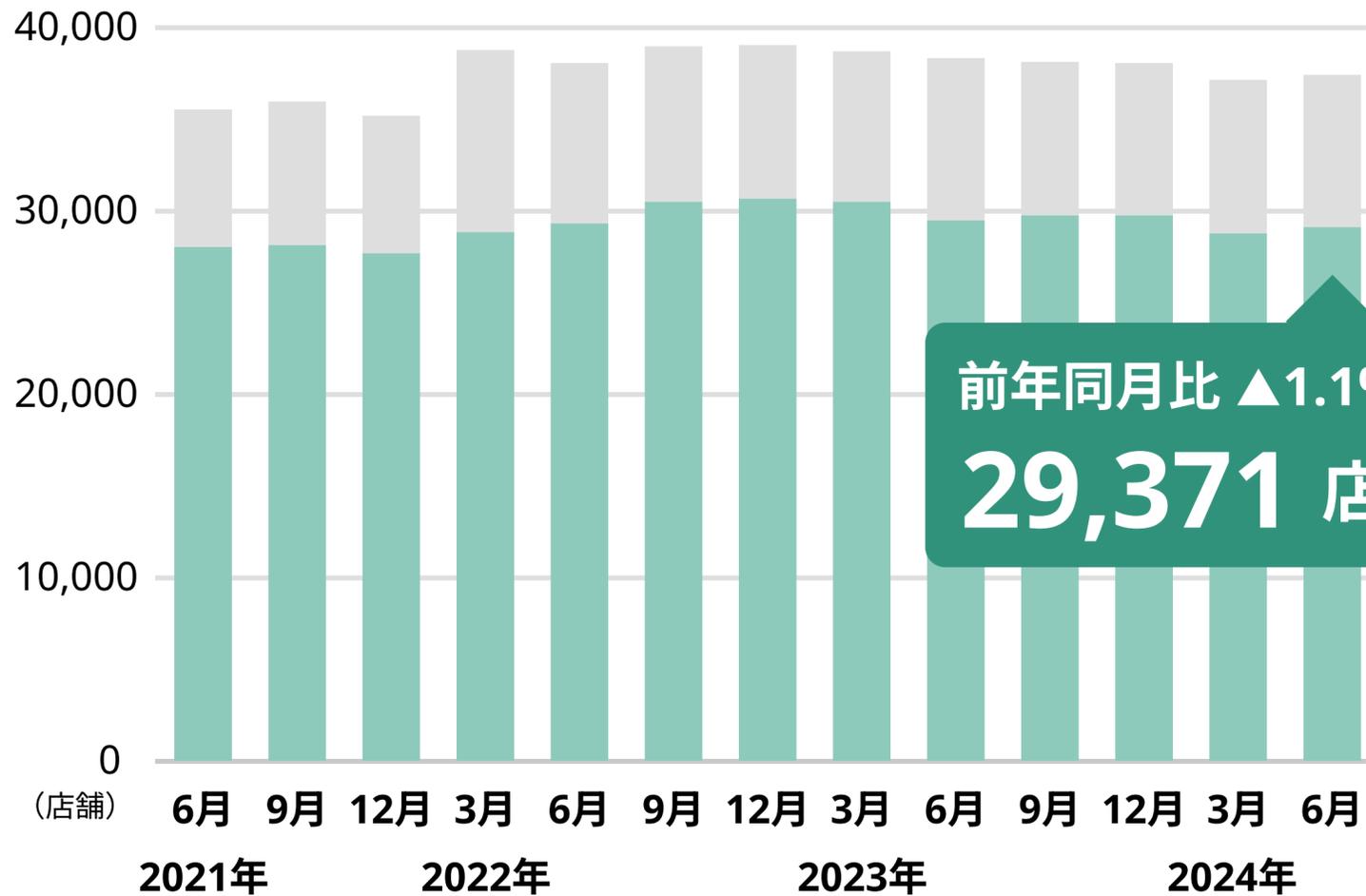
※ 2023年7月1日付で (株)Zaim 及び (株)Da Vinci Studio が合併し、存続会社の (株)Zaim を (株)くふう AI スタジオ に商号変更。

トクバイサービス有料掲載店舗数と平均単価の推移*

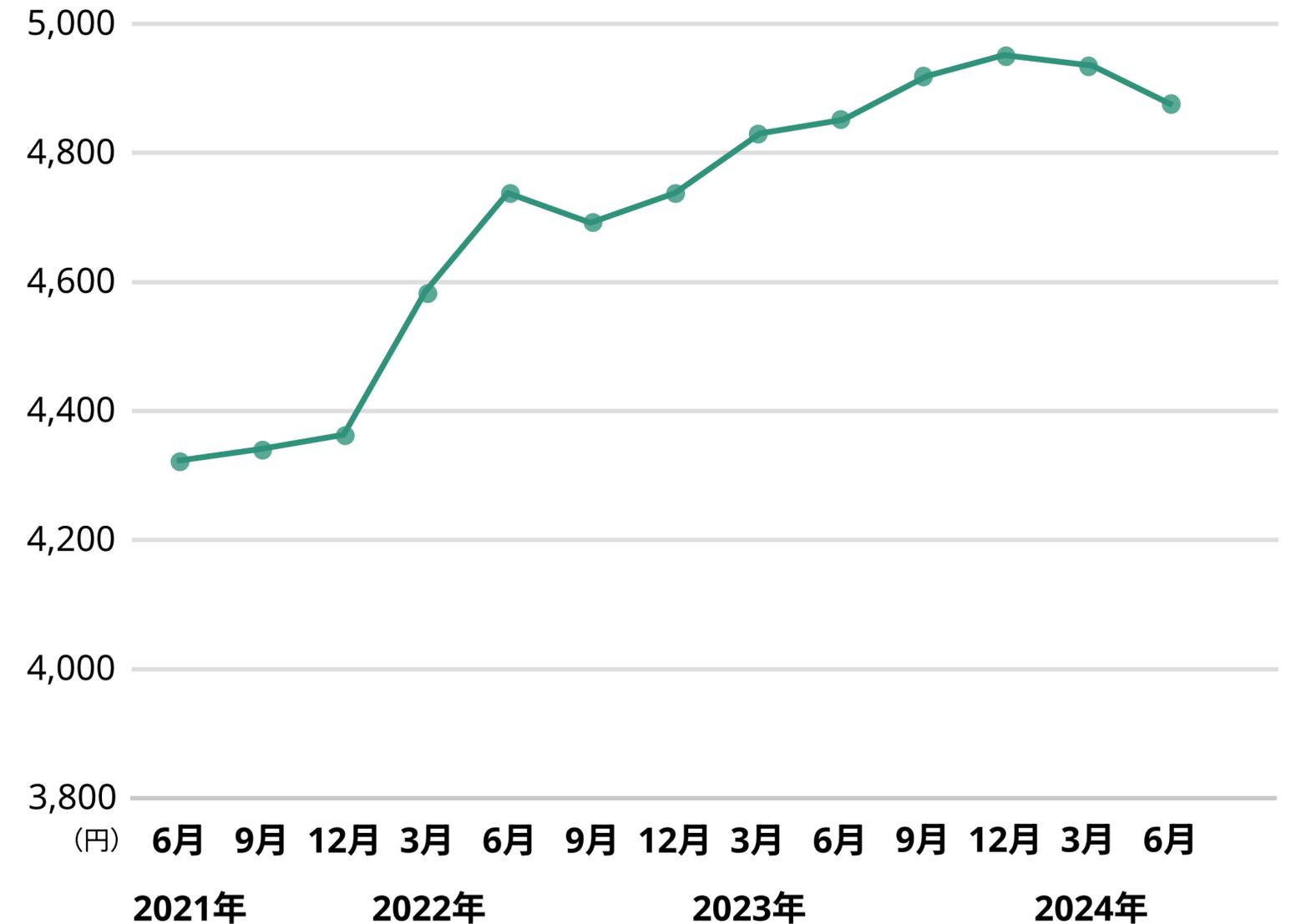
- 2024年6月末時点の有料掲載店舗数は 37,682店舗（定額課金店舗数は前年同月比 ▲1.1% の 29,371店舗）

有料掲載店舗数の推移

■ 定額課金店舗 ■ 成果報酬店舗



定額課金店舗の平均単価の推移

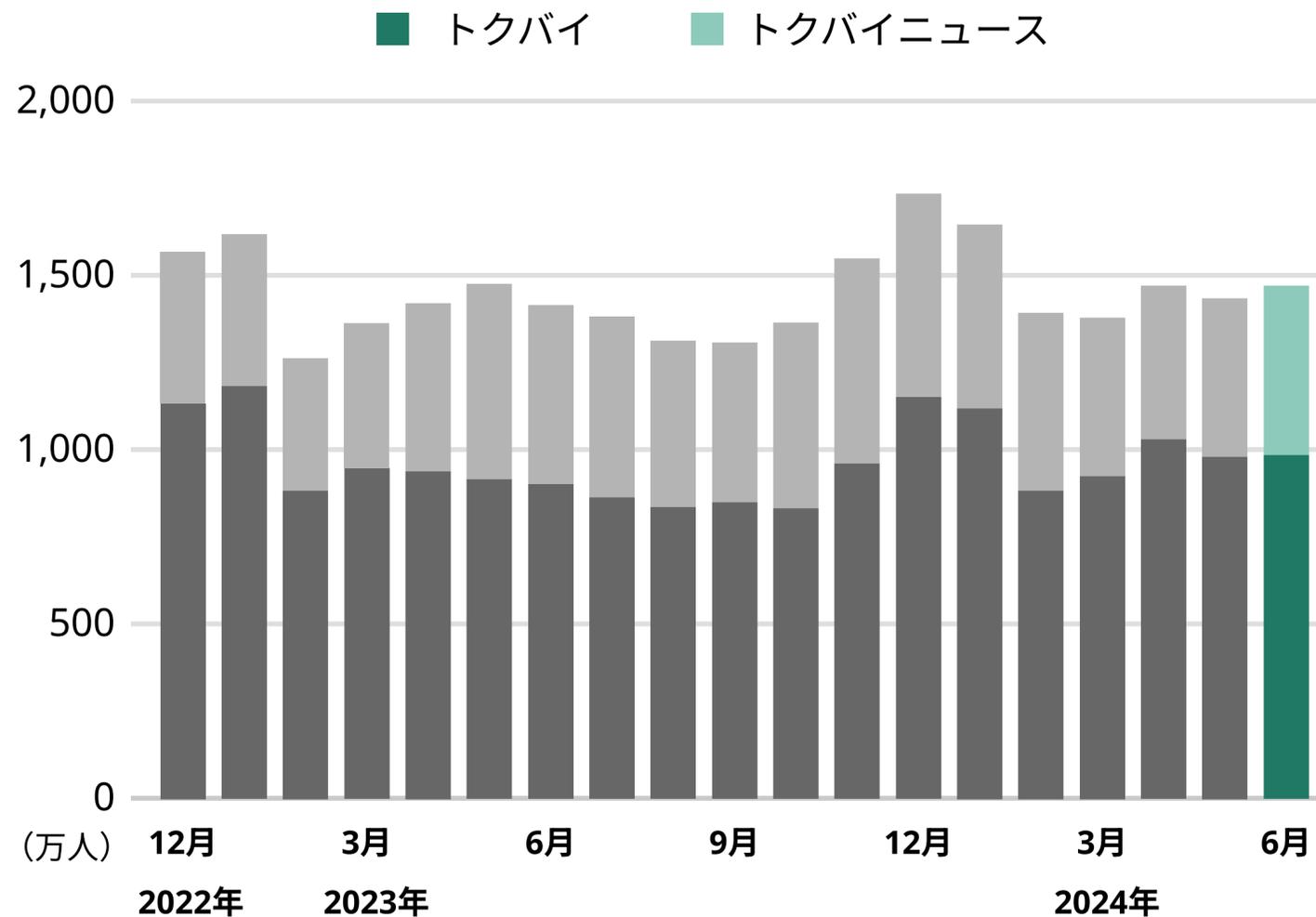


* 定額課金店舗の店舗数及び平均単価において、コンビニエンスストア約 16,000 店舗との取り組みについては不算入。

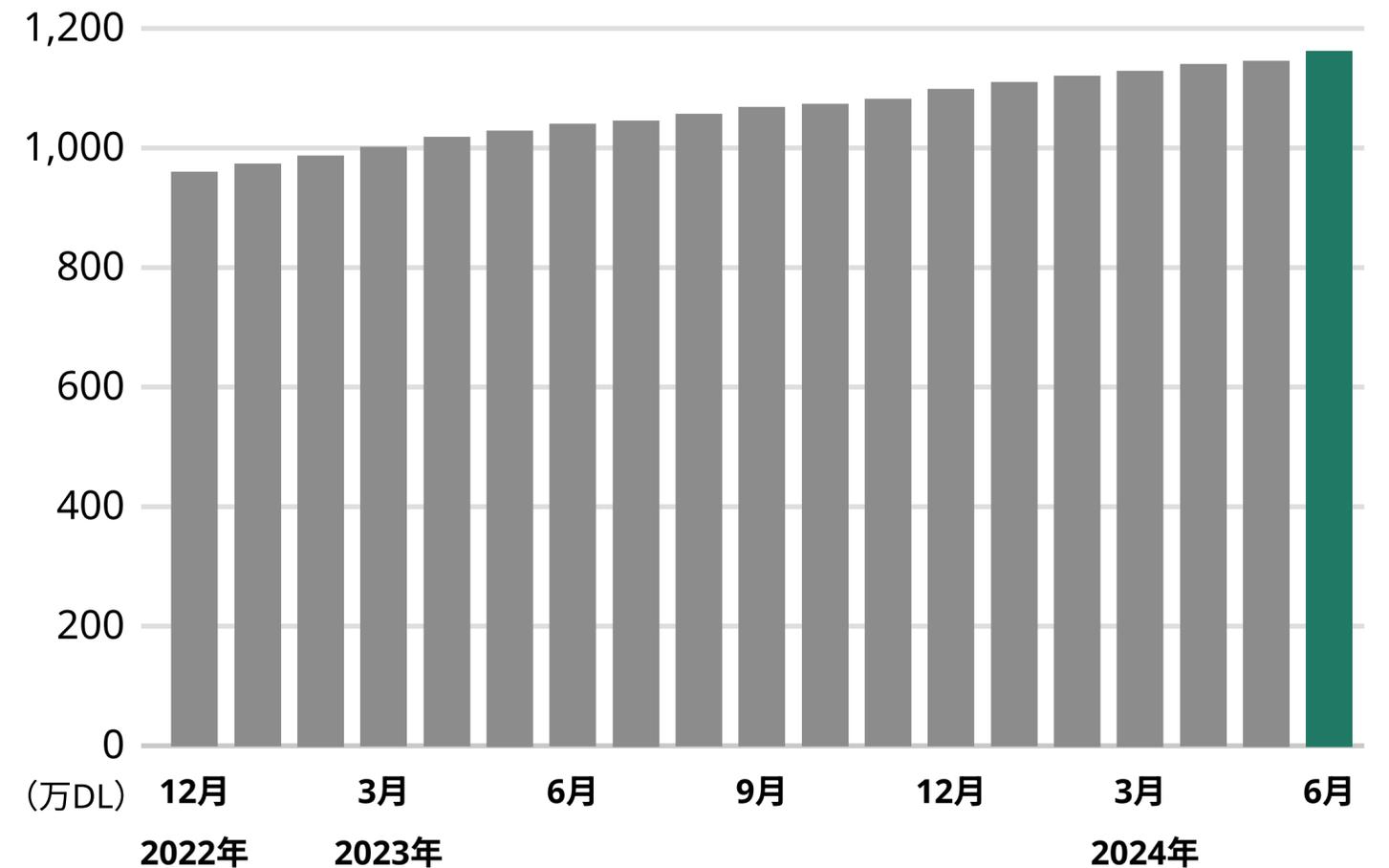
トクバイサービス月間利用者数とアプリDL数の推移

- 2024年6月末時点のトクバイサービス月間利用者数は約1,500万人、累計アプリDL数は約1,200万
- 2024年6月末時点のコアユーザー数※は364万人（2023年6月末時点は331万人）

月間利用者数



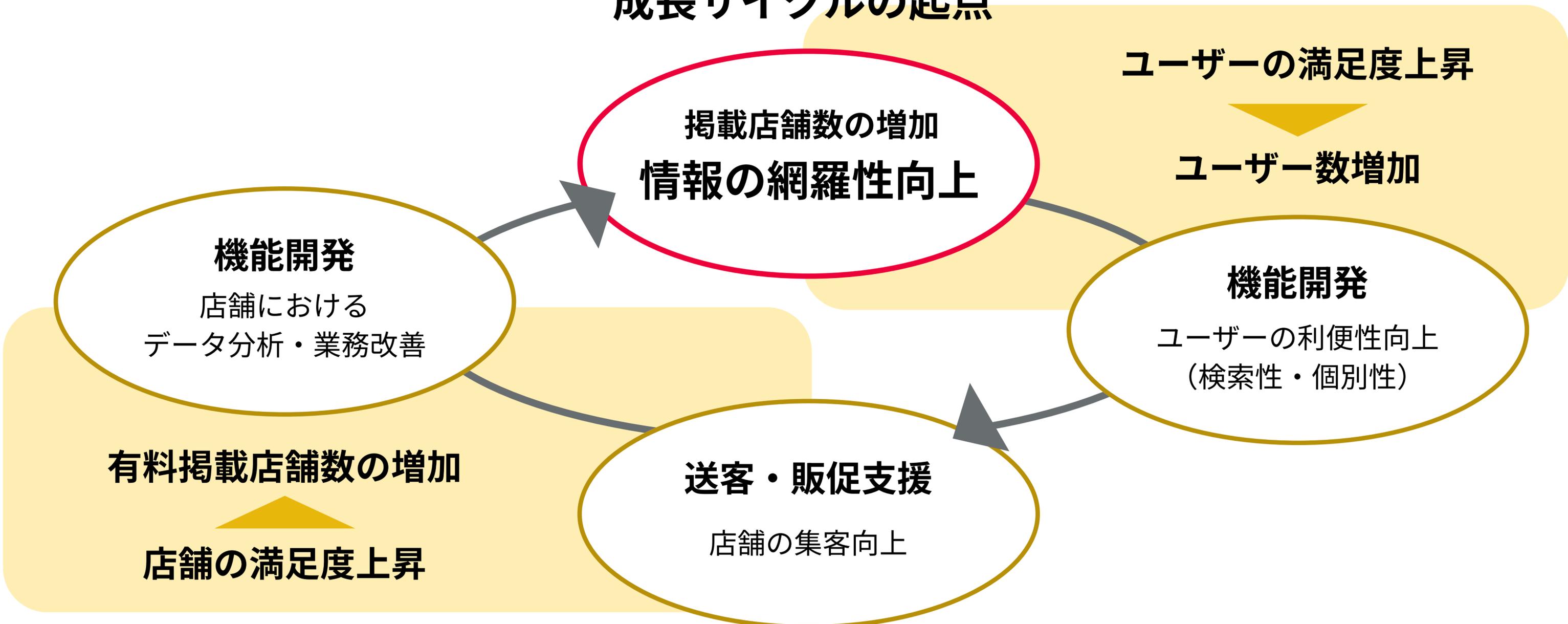
アプリDL数（累計）



※ 記事閲覧等のライトな利用ではなく、チラシやレシピ、クーポン機能といった生活行動につながる機能を週1回以上利用するユーザーを集計。

- 成長サイクルの起点となる「情報の網羅性向上」が足元で停滞していることが、成長のボトルネックに
- 掲載店舗数の増加に向けて、強い営業組織の再構築が急務

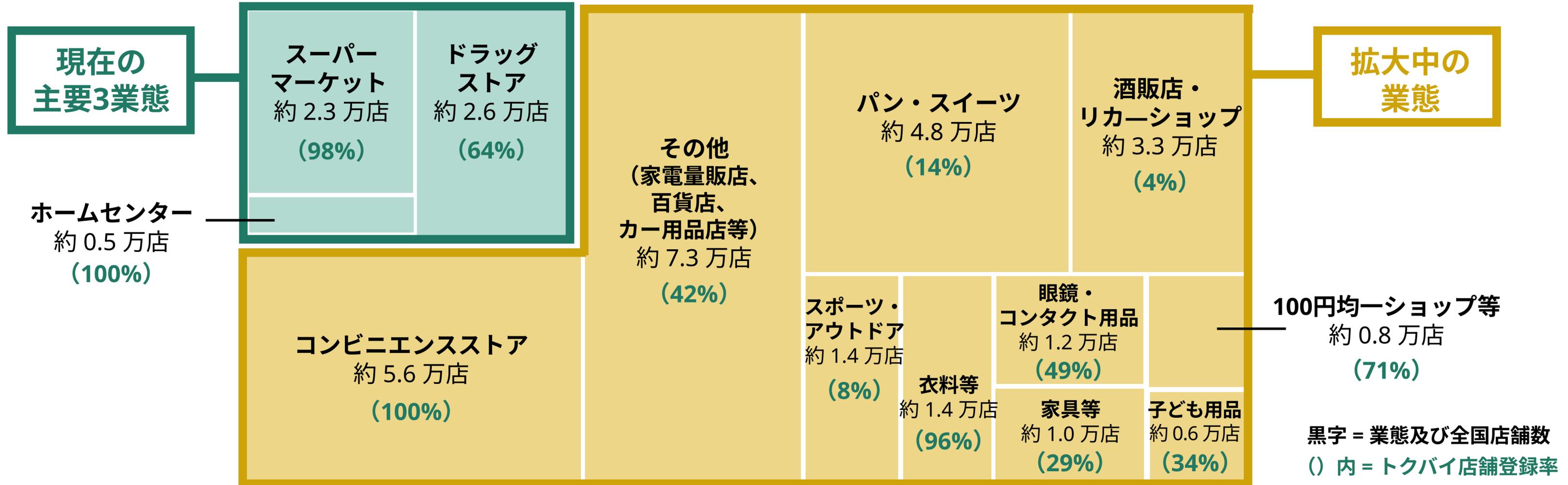
成長サイクルの起点



小売の情報掲載業態の拡大に注力

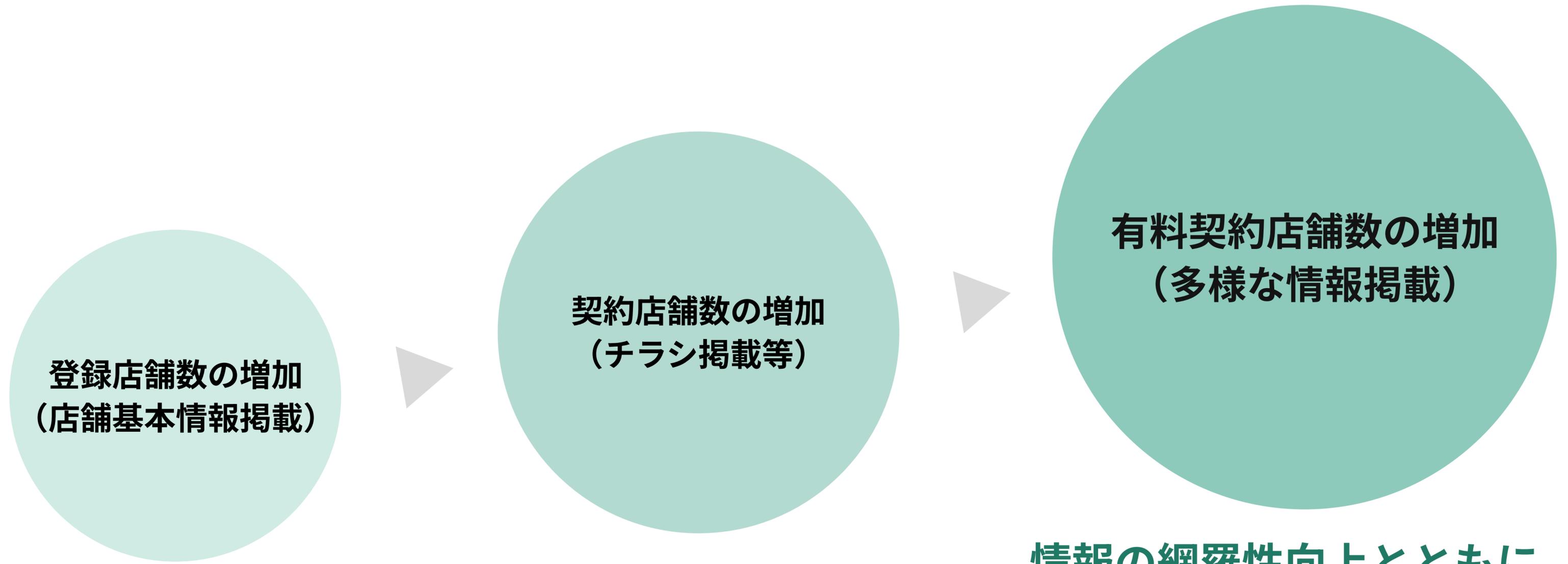
- ユーザーの多様な買い物シーンをサポートしていくとともに、各小売業態の販促支援を強化していく

小売における注力業態（約25業態）の市場合計：約 33 万店 ※
 2024年6月末時点のトクバイ登録店舗数：約 17 万店（登録率52%）



※ 総務省「経済センサス」、各業態の協会による公表値、その他調査会社による公表値等を基に当社集計。

- スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターに次ぐ小売業態における登録店舗の網羅率を向上中
- 掲載店舗数と1店舗当たりの情報掲載量拡大を通じて、情報の網羅性向上と事業成長を実現していく



情報の網羅性向上とともに、
事業を拡大

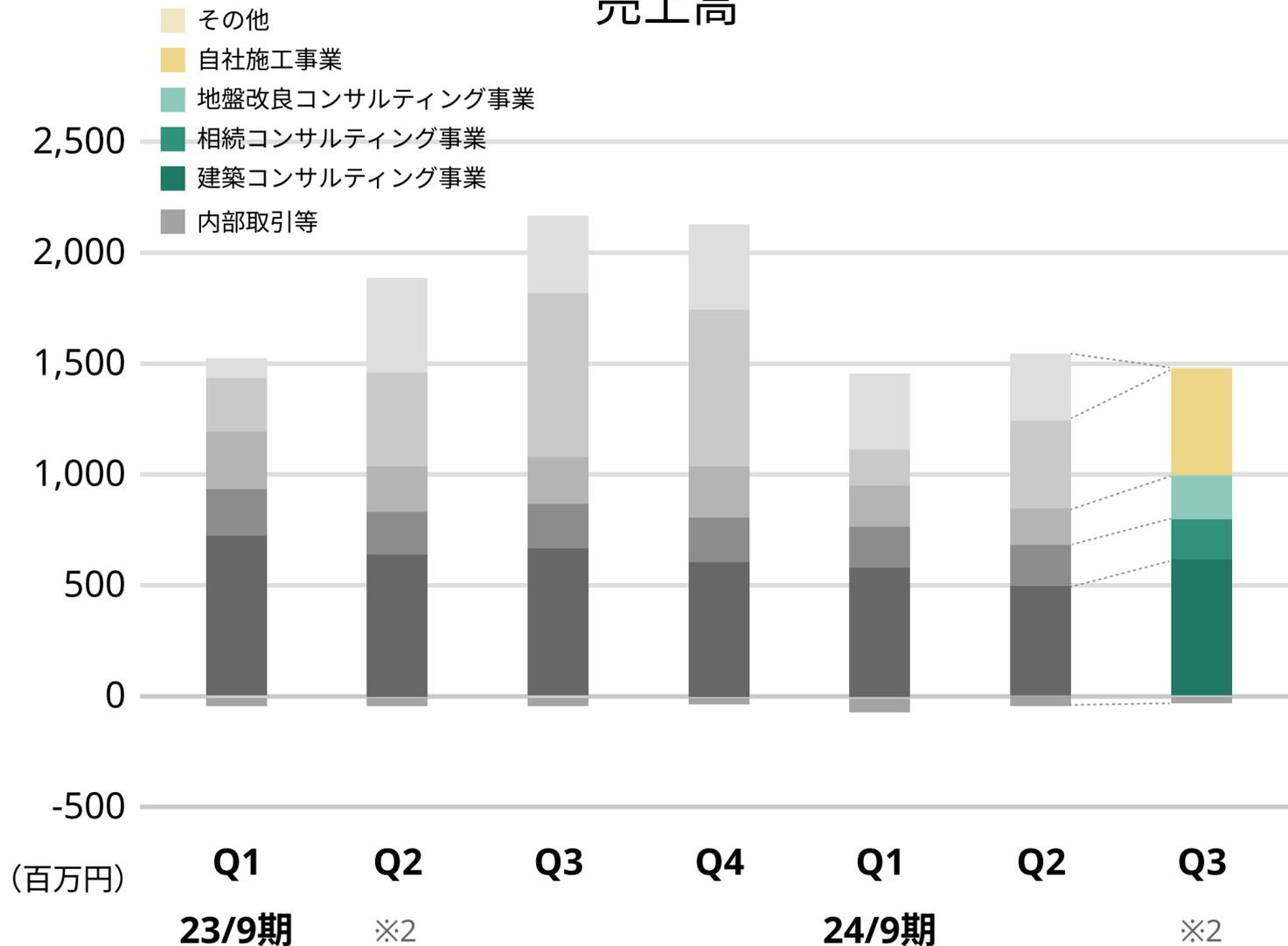
ライフイベント事業



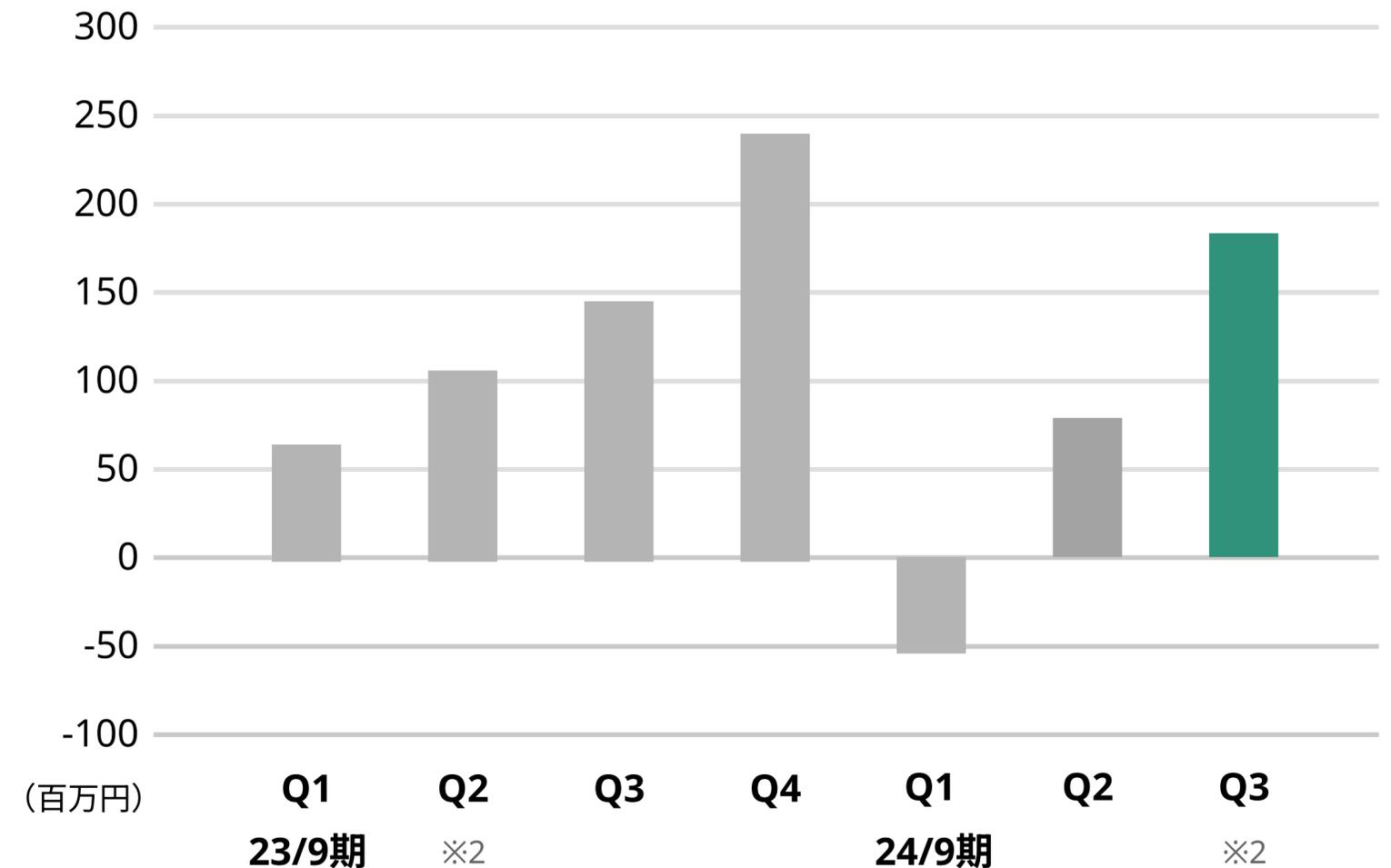
住まい領域（くふう住まいコンサルティング^{※1}） 連結業績 四半期推移 くふうカンパニー

- 引き続き市況は厳しいが、建築コンサルティング事業はWeb集客に一定の効果
- 自社施工事業は上期に発生した納期遅延はほぼ解消、第4四半期に住宅の引き渡しが集中する見込み
- OMソーラーは株式譲渡に伴い当第3四半期より連結から除外、前期からの継続的な不採算事業の整理が進み、収益力は改善傾向

売上高



営業利益

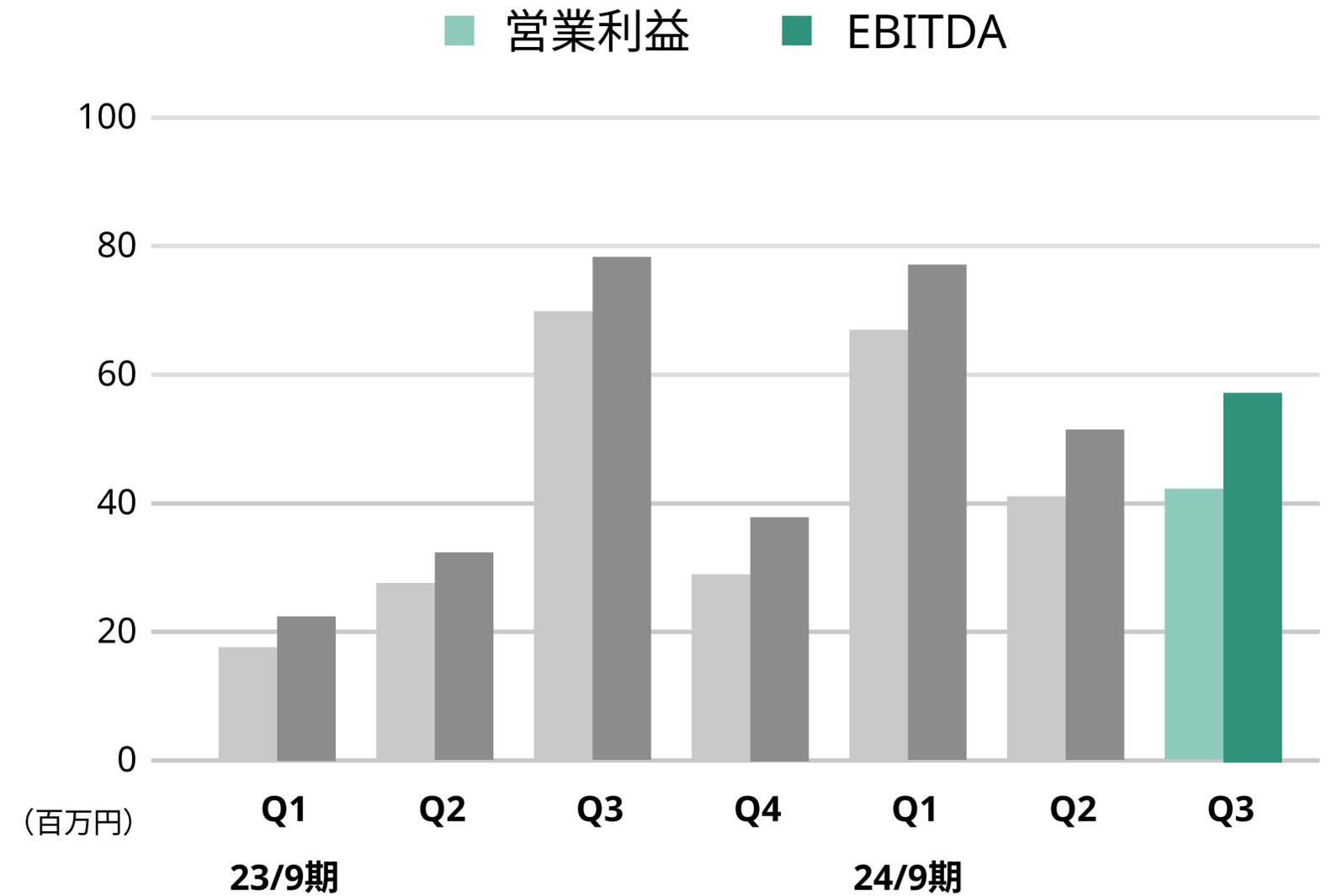
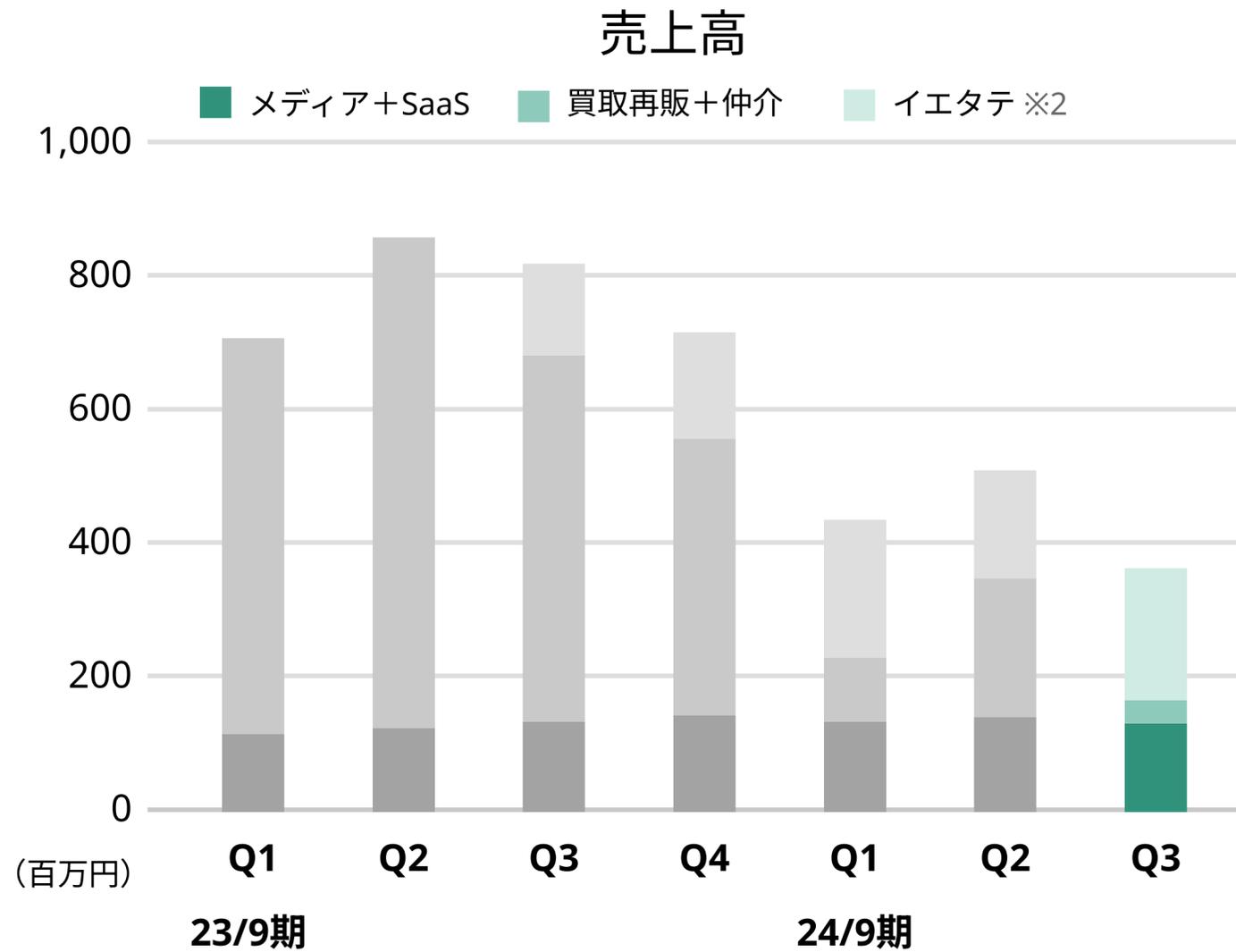


※1：2024年2月1日付で ハイアス・アンド・カンパニー(株) を完全子会社化。2024年8月1日付で (株)くふう住まいコンサルティングへ商号変更。

※2：OMソーラー(株) を2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。また、同社株式の譲渡に伴い、2024年9月期 第3四半期連結会計期間より連結から除外。

住まい領域（くふう住まい※1） 業績 四半期推移

- SaaSツールの販売が堅調に推移
- イエタテ事業は相談カウンターの成約数増加等が業績に寄与、既存店舗及び新店舗（3月=2出店、4月=1出店）で相談数が増加
- 買取再販サービスは、前期からの在庫整理が順調に進捗

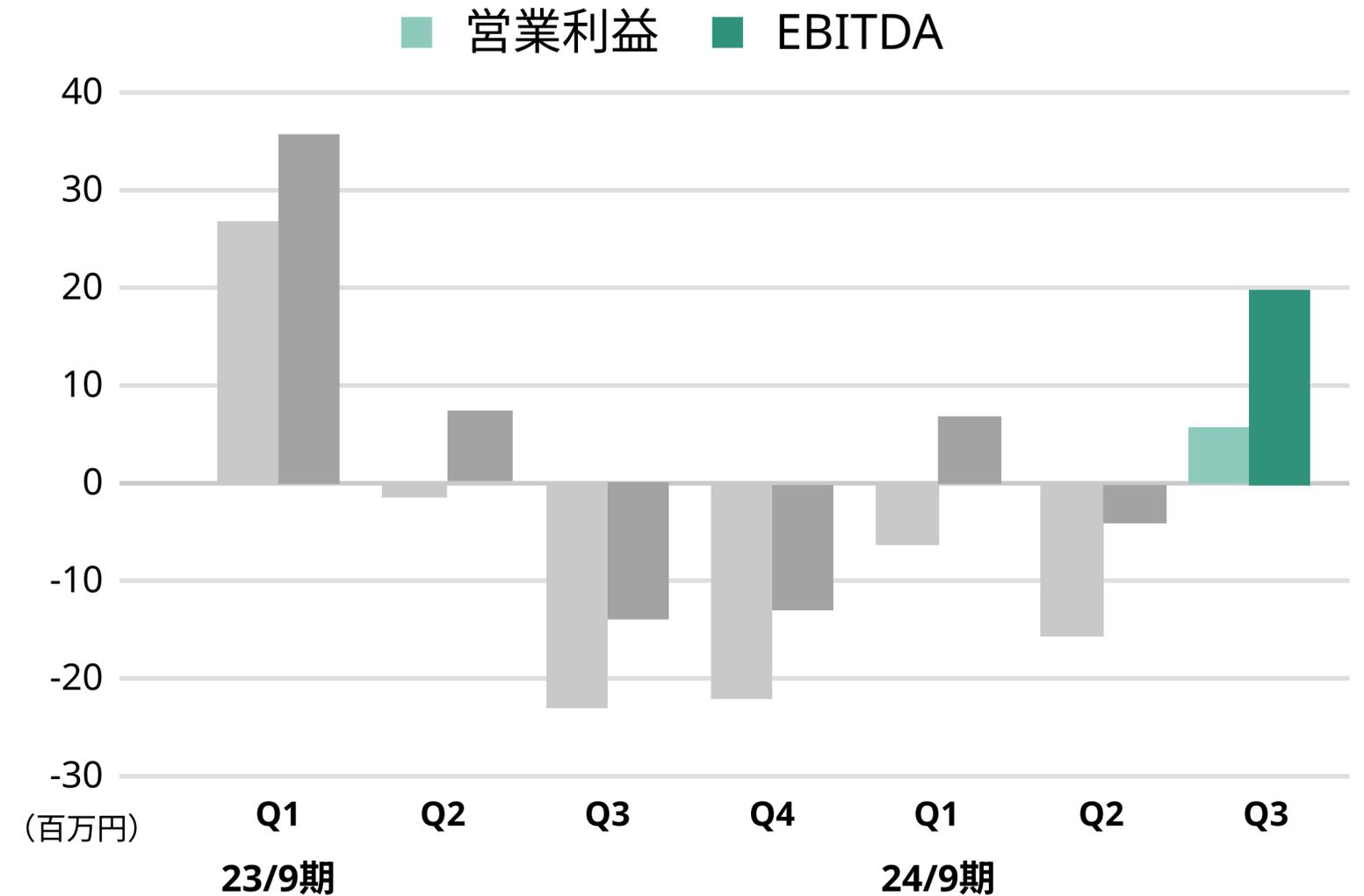
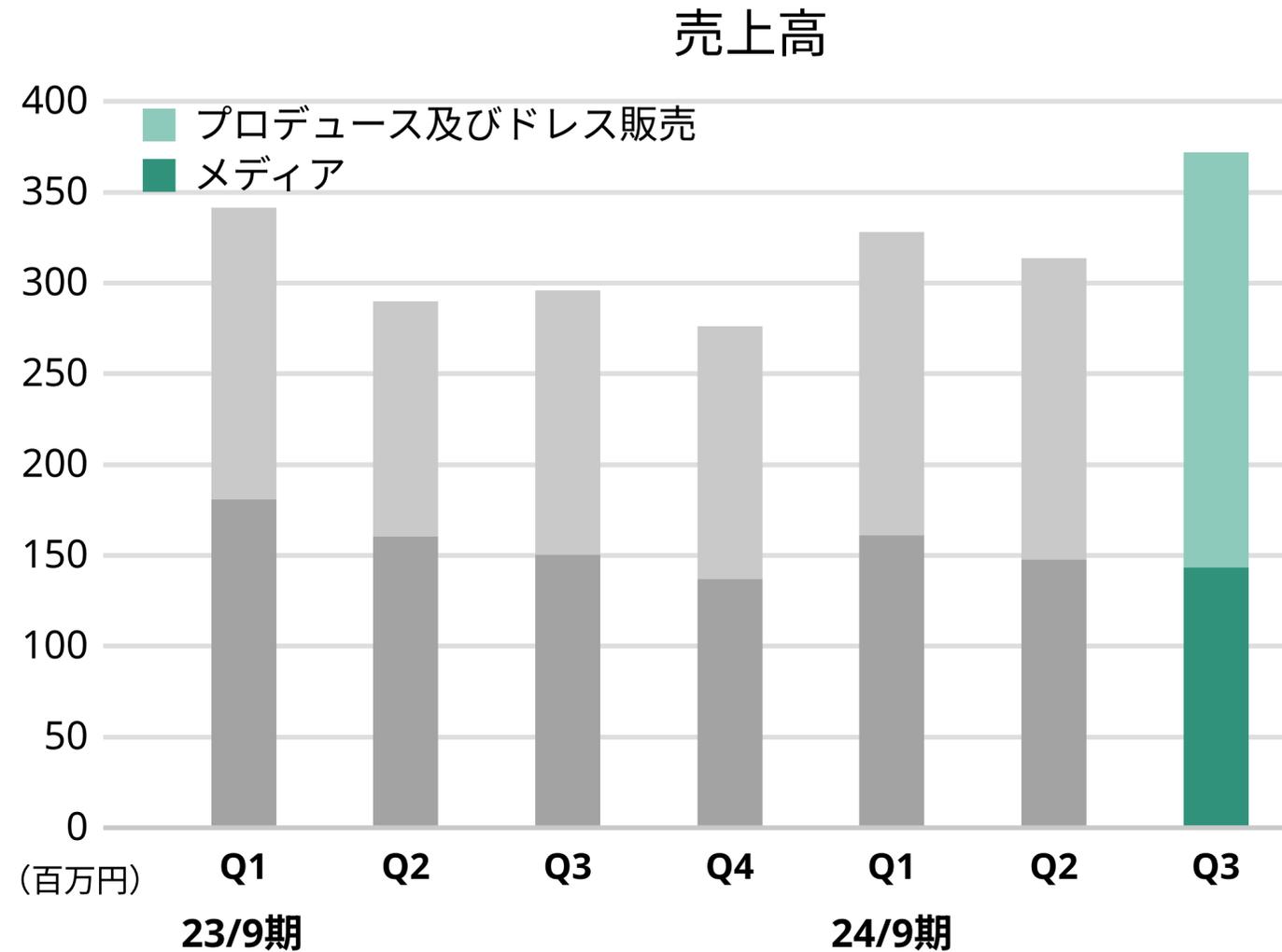


※1：2022年10月1日付で(株)オウチーノ及び(株)おうちのくふうを(株)くふう中間持株会社に統合し、(株)くふう住まいへ商号を変更。

※2：ローカルの住まい情報メディア「くふうイエタテ」及び家づくりの相談窓口「くふうイエタテカウンター」（2023年4月1日付で(株)しずおかオンライン（現(株)くふうしずおか）から(株)くふう住まいへ事業承継）。

結婚領域 業績 四半期推移

- 通期での黒字化に向けて、概ね計画通りの進捗
- メディア事業の市場環境は厳しいが、5月にWEB招待状サービス事業を取得し、商材拡充による収益力強化を推進中
- 結婚式プロデュース事業において施行数が増加、受注も堅調に推移



くふうカンパニーグループが提供する全ての事業において、
オンライン・オフラインのサービスをワンストップで提供し、

No.1のサービスへ

買い物 3年後に契約店舗数 & ユーザー数で圧倒的 No.1

住まい 5年後に住宅関連施工取扱い件数 No.1

結婚 5年後に結婚式取扱い件数 No.1

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競争、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。

お問い合わせ

コーポレート・コミュニケーション部 IR担当

E-mail : ir@kufu.co.jp HP : <https://kufu.company/>